

令和 4 年度岩手県消防協会実施事業報告

東日本大震災をはじめ、地震や台風、異常気象による局地的な豪雨、林野火災などの大規模災害を経験し、さらに近い将来、大規模な地震が懸念されることなどから、地域防災力の重要性が増大している。

こうした中、令和 4 年度の実施事業については、令和 4 年度岩手県消防協会事業計画に基づき、県内の消防本部、消防団並びに市町村と十分な協力、連携のもとに、計画された各事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により一部規模を縮小したが全て実施した。

地域防災力の充実強化等を図るため、岩手県消防学校において岩手県消防操法競技会を開催した。また、公益目的事業の防火防災思想の普及啓発事業としてチラシ「防火の知識」を作成配布するとともに、機関紙「消防岩手」を年 6 回発行し、県内の消防職・団員の教養資料や消防関係情報等の伝達に資した。

さらに、岩手県婦人消防連絡協議会及び岩手県幼少年婦人防火委員会に助成等を行い、婦人消防協力隊・婦人防火クラブ及び幼少年消防クラブ等と一体的に防火思想の普及啓発活動に努めたほか、岩手県防災保安協会と連携し、住宅用火災警報器の維持管理等の広報に努めた。

消防功労者の顕彰として、消防職・団員の連携の強化と士気の高揚を図るため、消防定例表彰を実施するとともに、消防殉職者及び消防協力者の御霊の安んずることを念じるとともに、遺徳を偲ぶため、岩手県消防殉職者慰霊祭を実施した。

消防団員の減少で地域防災力の低下が懸念されることから、消防団員の確保を図るため、消防団員募集や消防団活動等の P R 活動についてラジオ広報等を活用して広く住民に実施した。

また、公益目的事業の補完的な役割となる収益事業として、消防団員等の福利厚生を図るため、消防団員等福祉共済事業、婦人消防隊員福祉共済事業、消防団員火災共済事業、消防個人年金事業等の事務を行った。

○ 公益目的事業 1

I 防火防災思想の普及啓発事業

1 防火思想普及事業

(1) チラシ「防火の知識」の作成配布

県民の防災思想普及の啓蒙を図るため、「秋季全国火災予防運動」に併せ、令和 4 年版チラシ「防火の知識」を作成し、市町村並びに関係団体等に配布した。〈18,000 部〉

(2) 機関紙「消防岩手」の発行

日本消防協会の補助を受け、機関紙「消防岩手」を年 6 回発行し、

消防職・団員の教養資料及び情報の伝達に資した。〈3, 550部〉

(3) 機関誌「日本消防」の配布

日本消防協会の機関誌「日本消防」を消防団長等の教養資料等に資するために配布した。〈175部〉

(4) 住宅用火災警報器の維持管理等の広報

住宅用火災警報器の設置義務化から10年以上が経過し、交換等の維持管理が重要になることから、岩手県婦人消防連絡協議会、岩手県防災保安協会等と連携を図り広報活動を行った。

(5) 岩手県婦人消防連絡協議会による防火思想普及活動助成

県内の婦人消防協力隊及び婦人防火クラブ員による防火思想の普及啓発を図るとともに、組織拡大と育成強化を図るために活動助成金として30万円を交付した。

ア 総会及び隊長・会長研修会

〈令和4年4月24日（日）・岩手県立総合防災センター〉

婦人消防協力隊長、婦人防火クラブ会長等の資質の向上を図ることを目的として開催する研修会に協力した。

イ 婦人消防等指導者研修会

〈令和4年11月27日（日）・アートホテル盛岡〉

自主防災組織の中核である婦人消防等の民間防火組織の拡充強化及びその資質向上を図ることを目的として、当協会と岩手県婦人消防連絡協議会、岩手県幼少年婦人防火委員会、日本防火・防災協会の共催による「令和4年度婦人消防等指導者研修会」及び新型コロナウイルス感染症の感染拡大により昨年からの延期した「岩手県婦人消防連絡協議会結成50周年記念式典」並びに北海道・東北ブロックの研修会の輪番による幹事県であることから「令和4年度北海道・東北ブロック女性（婦人）防火クラブ連絡協議会幹部地域研修会」の開催に協力した。

(6) 岩手県幼少年婦人防火委員会による防火思想普及活動助成

県内の幼少年消防クラブ及び婦人消防協力隊・婦人防火クラブによる防火思想の普及啓発を図るとともに、組織の拡大と育成強化を図るために活動助成金として20万円を交付した。

ア 定例表彰

9月1日の防災の日に表彰基準に基づき火災予防意識の高揚及び啓発に多大な貢献をされ、他の模範となる優良幼年消防クラブ1団体、優良少年消防クラブ3団体及び優良婦人消防協力隊・婦人防火クラブ2団体並びに優良幼少年消防クラブ指導者3名を表彰した。

イ 火災予防広報事業

幼年・少年消防クラブ員の活動に資するため、火災予防啓蒙用品

を各地区の幼少年防火委員会あてに配布した。

(7) 岩手県婦人消防連絡協議会の事務協力

県内の婦人消防協力隊・婦人防火クラブの組織の充実強化を図るとともに、相互の連帯協調のもとに全県的な火災予防活動を進めることにより、安全で住みよい郷土づくりに貢献することを目的に結成されている岩手県婦人消防連絡協議会の事務局として事務全般にわたり協力した。

(8) 岩手県幼少年婦人防火委員会の事務協力

県内の幼少年消防クラブ及び婦人防火クラブ等の育成強化を図り、火災予防思想の普及向上に努めるとともに、本県の火災予防の推進に寄与することを目的に結成されている岩手県幼少年婦人防火委員会の事務局として事務全般にわたり協力した。

(令和4年4月1日現在 幼年消防クラブ275団体15,833人、少年消防クラブ129団体6,416人、婦人消防協力隊(婦人防火クラブ)45団体66,279人)

(9) 岩手県消友会の事務協力

退職された消防団長、婦人消防協力隊長・婦人防火クラブ会長及び消防長等が、消防人であったことに誇りを持って、会員相互の親睦等を図るとともに、岩手の消防発展に寄与することを目的に結成されている岩手県消友会の事務局として事務全般にわたり協力した。

2 岩手県消防殉職者慰霊祭

(1) 岩手県消防殉職者慰霊祭

<令和4年9月22日(木)・岩手県公会堂・岩手公園義魂碑>

消防殉職者及び消防協力者の179柱の御霊のご冥福を祈り、その功績をたたえ、遺徳を偲ぶとともに、先人の犠牲をむだにすることなく、防火防災に関する知識の向上に努め、安全な消防活動等による地域防災力の向上を誓う事業として、ご遺族、知事、市長会会長、町村会会長等の来賓及び当協会役員、関係者が参列して挙行了。

(2) 岩手県消防殉職者遺族会の事務協力

県内において、消防職・団員として勤務し、殉職した者及び消防協力者のご遺族を会員とする岩手県消防殉職者遺族会の事務局として事務協力した。

II 消防功労者の顕彰

1 令和4年度岩手県消防協会定例表彰

<令和5年3月16日(木)・岩手県民会館>

消防職・団員が長年の消防防災活動に従事した功績、消防協力団体並

びに一般の方々が火災等の災害発生時に消火や人命救助等に協力した功績を顕彰し、災害対応等への消防活動に対する住民の理解醸成及び防火防災意識の向上、消防職・団員の連携の強化と士気の高揚を図り、安全な県土を構築する事業として、岩手県と共催により令和4年度岩手県消防表彰式を行った。

(1) 岩手県消防協会会長表彰

- ア 竿頭綬「現場功労」 1 団 一戸町消防団
- イ 竿頭綬「無火災功労」 4 団 盛岡市消防団、釜石市消防団、滝沢市消防団、大槌町消防団
- ウ 「功労章」 80 名
- エ 「功績章」 170 名
- オ 「表彰状」
 - ・岩手県消防協会役員功労賞 4 名
 - ・婦人消防協力隊員・婦人防火クラブ員表彰 34 名
 - ・消防団事務担当功労賞 1 名

(2) 岩手県消防協会会長感謝状

- ア 一般協力団体 2 団体 株式会社オサダ岩手事業所（遠野市）
有限会社藤双製作所（花巻市）
- イ 内助功労賞 90 名

2 第64回岩手県民の警察官・消防職団員表彰式

<令和4年11月15日（火） 盛岡市民文化ホール>

読売新聞及びテレビ岩手主催による岩手県民の警察官・消防職団員表彰に、釜石大槌地区行政事務組合消防本部 白沢 泰 消防司令補が受章の栄に浴され、表彰状及び記章等が授与された。

Ⅲ 消防団員の確保及び育成強化事業

1 消防団員確保事業

社会経済の変化や少子高齢化等に伴い、消防団員数の減少で地域防災力の低下が懸念されていることから、消防団員の確保を図り安全・安心なまちづくりに寄与する事業として、消防団員募集や消防団活動等についてのPR活動を行った。

ラジオ広報

<令和5年1月24日（火）～3月24日（金）>

ラジオ局（IBCラジオ及びエフエム岩手）を活用し、ラジオCMのスポット放送を実施して消防団員募集等のPR活動を行った。

2 消防操法競技会事業

(1) 第42回岩手県消防操法競技会

<令和4年7月24日（日）・岩手県消防学校>

消防団員のポンプ操法技量の基礎を培い、競技による操作の三原則である安全、確実、迅速の徹底と士気の高揚を図ることを目的として岩手県の後援により開催した。

なお、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、無観客開催とし、開閉会式や参加者を縮小するとともにブロックごとに時間差で実施する方式とした。

また、各地区支部に出場助成金を交付した。

ア ポンプ車の部 12チーム

イ 小型ポンプの部 12チーム

(2) 第29回全国消防操法大会

<令和4年10月29日(土)・千葉県消防学校>

第42回岩手県消防操法競技会「ポンプ車の部」で優勝し、日本消防協会が消防技術向上と士気の高揚を図り、もって地域における消防活動の充実に寄与することを目的に開催する全国消防操法大会に岩手県代表として出場する北上市消防団に訓練及び出場助成金を交付した。

3 消防団員の育成強化

(1) 令和4年度消防団長等幹部研修会

<令和5年1月19日(木)・アートホテル盛岡>

消防団組織の育成強化、消防団の幹部としての資質の向上を図ることを目的として「消防行財政の現状と課題」と題して岩手県復興防災部消防安全課総括課長からの講話、「第29回全国消防操法大会の出場報告」と題して北上市消防団長及び「ドローンを活用した消防団活動」と題して盛岡市消防団長からの事例発表、日本消防協会の新たな災害環境に対応する消防団のあり方に関する講座として「糸魚川市駅北大火からの教訓」と題して新潟県糸魚川市消防団長 齊藤直文氏から講演の研修会を開催した。

(2) 総合的現地教育訓練指導

各消防団等が開催した消防演習等に会長等が出席し、消防団員並びに消防関係者を激励した。

(3) 消防救助技術岩手県大会への補助事業

<令和4年6月28日(火)・岩手県消防学校>

岩手県消防長会が消防職員の救助技術の訓練成果を披露するとともに、より高度な救助技術を取得することを目的に開催された「第44回消防救助技術岩手県大会」の運営費の一部として10万円の補助金を交付した。

4 日本消防協会が実施する事業等への協力、参加助成

消防殉職者慰霊祭、消防操法大会、消防団員の研修事業等に参加した

経費の一部を助成するとともに、参加協力する。

(1) 第41回全国消防殉職者慰霊祭

＜令和4年9月15日（木）・ニッショーホール＞

全国の消防殉職者の御霊のご冥福を祈るために举行された全国消防殉職者慰霊祭は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により参列者が新合祀関係者のみに縮小されたため、本県から新合祀関係者3名と山下会長が参列した。

(2) 第29回全国消防操法大会

＜令和4年10月29日（土）・千葉県消防学校＞

岩手県代表として、ポンプ車の部に北上市消防団隊が出場し準優勝を受章した。

(3) 第49回消防団幹部特別研修

＜令和5年1月17日（火）～1月20日（金）・日本消防協会＞

奥州市消防団 小野寺満副団長が参加した。

(4) 第21回消防団幹部候補中央特別研修

＜令和5年2月1日（水）～2月3日（金）・日本消防協会＞

将来の消防団幹部を育成することを目的に開催された本研修会に、北上市消防団2名、西和賀町消防団1名が参加した。

(5) 第75回日本消防協会定例表彰

ア 優良消防団「表彰旗」 1団 久慈市消防団

イ 優良消防団「竿頭綬」 3団 北上市消防団、陸前高田市消防団、野田村消防団

ウ 「功績章」 19名

エ 「精績章」 49名

オ 「勤続章」 355名

(6) 女性消防団員研修事業

＜令和4年11月22日（火）・アスティ徳島＞

女性消防団員の育成と消防団活性化に資するとともに、地域住民に対し防火意識の高揚を図ることを目的として開催された「第26回全国女性消防団員活性化徳島大会」に本県から女性消防団員等6名が参加した。

(7) 消防団員指導員研修事業

＜令和4年12月2日（金）・3日（土）岩手県立総合防災センター＞

地域防災の中核としての役割を果たす消防団員の任務の重要性に鑑み、これら消防団幹部としての防災技術の向上を図るために、日本消防協会が都道府県単位に実施する「令和4年度消防団員指導員研修」を実施した。（17消防団、36名）

○ 公益目的事業 2

岩手県立総合防災センターの運営管理受託業務

岩手県の委託を受けて、県民に対する防災思想の普及啓発を図ることを目的として、地震や暗闇、煙の疑似体験、各種展示設備、モニター映像等により防火防災知識を取得するとともに、模擬消火や応急手当の実演なども体験できる総合防災センターの運営管理等の委託業務を実施した。

(来館者数 4, 000人、内訳：団体(120団体) 2, 321人、個人1, 679人)

また、防災指導車「防災そばっち号」を活用した出前講座や各種イベントに出向した。

(防災指導車による指導 37回、3, 268人)

○ 収益事業

1 消防団員等福祉共済事業

消防職・団員が死亡又は障害を受けた場合に、その家族の生活を守るとともに、消防団員等の福祉の増進を図ることを目的とした福祉共済制度に33消防団、1消防本部が加入した。

2 婦人消防隊員福祉共済事業

協同互助による共済制度への加入を推進し、婦人消防隊員、婦人防火クラブ員の活動の活性化と福祉の向上を一層進めることを趣旨とした婦人消防隊員福祉共済制度に28団体が加入した。

3 生活協同組合全日本消防人共済会関係(消防団員火災共済事業)

全国の消防職・団員の福利厚生を図るために、協同互助の精神に基づく共済制度を確立し、組合員の不慮の災害を保障するとともに、その生活の文化的、経済的改善向上を期することを目的とした火災共済に27消防団、1消防本部が加入した。

4 消防個人年金事業

消防職・団員の老後の生活の安定と福祉の向上に資するための消防個人年金制度の周知を図った。

5 幹旋事業

日本消防協会が実施している消防団手帳、消防職・団員幹部職章や記念事業等で販売する記念Tシャツ等について、岩手県分の幹旋及び取りまとめの業務等に協力した。

○ その他の事業 1 (相互扶助等事業)

岩手県危険物安全協会連合会の事務受託

危険物の取扱い技術の向上及び施設の改善、危険物に起因する災害の防止に努めることをもって、社会公共の福祉の増進に寄与することを目的に組織されている岩手県危険物安全協会連合会の事務を受託し、同連合会の全般にわたる事務を行った。

○ その他の事業 2（相互扶助等事業）

1 初任消防団員教育訓練事業

岩手県の委託を受けて、初任消防団員の資質の向上と消防体制の強化を図ることを目的として消防団員として必要な消防に関する教育訓練を地区支部単位に実施した。

（訓練参加人員：初任消防団員教育 758人）

2 健康増進事業

日本消防協会から「健康増進事業」として受託し、簡易拡声器72個を5か年計画の5年目で4消防団に配布した。

○ 法人関係

1 会議関係

本会運営のために諸会議を開催するほか、関係機関の開催する会議に関係者が出席した。

(1) 岩手県消防協会各種会議

ア 会長・副会長・業務執行理事会議 3回

イ 理事会 4回

ウ 評議員会 1回

エ 監査会 1回

オ 評議員選定委員会 1回

カ 表彰審査委員会 2回

(2) 令和4年度東北地区消防連絡協議会

＜令和4年7月27日（水）・福島市：ウェディングエルティ＞

東北地区の消防関係者の連絡を密にするとともに、当面する消防防災上の諸課題について研究協議を行い、消防の資質向上や地域防災の活性化に努めた。

(3) 令和4年度東北地区消防協会事務局会議

＜令和5年1月12日（木）・秋田市にぎわい交流館Au＞

東北地区の消防協会事務局関係者の情報交換や諸課題についての研究討議を行い、知識の修得や資質の向上に努めた。

2 協力事務

(1) 公益財団法人 日本消防協会関係

日本消防協会の監事及び評議員として協会長が、評議員として副会長が会議等に出席した。

(2) 公益財団法人 消防育英会関係

殉職された消防職・団員の遺児が発生した場合に、消防育英会の奨学生として奨学金が交付されて学業に励めるよう消防育英会の事務に協力した。

(岩手県内の令和4年度の奨学生 36名)